

安心安全な 水を 支える現場

私たちの生活になくてはならない「水」。蛇口をひねればいつでもあるように思いがちですが、安全安心な水道水が届くまでに、たくさんの人が携わっています。今回は、結城市の水道事業を支える仕事に従事する皆さんにインタビューをしました。

図 市水道課 TEL 34-1611

安全安心な
水道水を
支えるしくみ

水源

深井戸から汲み上げた地下水と、霞ヶ浦の水を水源にした「県南西広域水道用水」を利用しています。この水は、県の関城浄水場から鬼怒川大橋(山王)の南側に見える水管橋を通過して、林浄水場に供給されています。

浄水場



水道管

水道管は、耐久性の高いダクタイル鑄鉄のほか、硬質塩化ビニルやポリエチレンなどでつくられています。非常時に備え、水道管の耐震化を進めていく必要があります。

各家庭

将来を見据えた
水道施設の
安定的な維持管理へ

浄水場から家庭に届くまで 水道管の全てを守る



結城市管工事協同組合
(有) 神生工業
神保博也さん

水道管の工事などを請け負う市内事業者でつくる「結城市管工事協同組合」は、水道管の新設・更新などの配管工事のほか、漏水やにごり水といった緊急時の対応なども行います。いわば、「浄水場から家庭に水が届くまでの水道管の全てを守る」ことが仕事だと言えます。結城市内には総延長で約400kmもの水道管が敷設されており、水道管の更新作業は常に必要です。何よりもまずは、水漏れが起こらないよう丁寧な作業を心がけています。



老朽化した水道管を交換する様子
地中を掘削し一時的に断水させて新たな管を手早くつなぐ

24時間365日 水の供給を絶やさない



明電ファシリティサービス(株)
林・本町事業所長
篠崎一則さん

城跡歴史公園の西側にある「本町浄水場」と、市営林住宅の南側にある「林浄水場」の2つの浄水施設について、運転監視や保守点検など24時間365日体制で維持管理を行っています。

浄水場には、地下水の汲み上げから浄化処理、そして水の送り出しまで、重要な機械設備が数多くあります。また、両浄水場とも停電時のために大型の自家発電機を備えています。高圧電力機器

は常に危険が伴いますし、非常時は昼夜問わず緊急出動して復旧作業にあたるので、常に気の抜けない仕事ではありますが、「どんなときでも、安全安心な水が止まることなく」を心掛けて、日々の業務にあたっています。

何よりも水質管理には細心の注意を払い、塩素濃度の管理と水質検査は毎日行っています。生活に欠かせない「水」で、これからも市民生活を支え続けていきますので、蛇口をひねったときにふと「この水ってどうやって作られるんだろう」と、思いを馳せていただければ幸いです。



林浄水場には監視員が24時間常駐し
本町浄水場は無人のため遠隔監視されている



停電などの非常時に稼働する大型発電機

本町浄水場は昭和40年、林浄水場は昭和49年に竣工しており、老朽化が進んでいます。また、基幹管路(避難所や病院までの配水ルート)の耐震管率も低く、早急に耐震化を実施していく必要があります。人口減少により、水の需要が減っていくことが見込まれる中で、今後も健全な事業運営を継続できるように、施設能力の縮小や料金体系の定期的な見直しなどを含めて、水道事業の適切な在り方を随時検討していきます。



経年劣化により腐食が進んだ水道管